

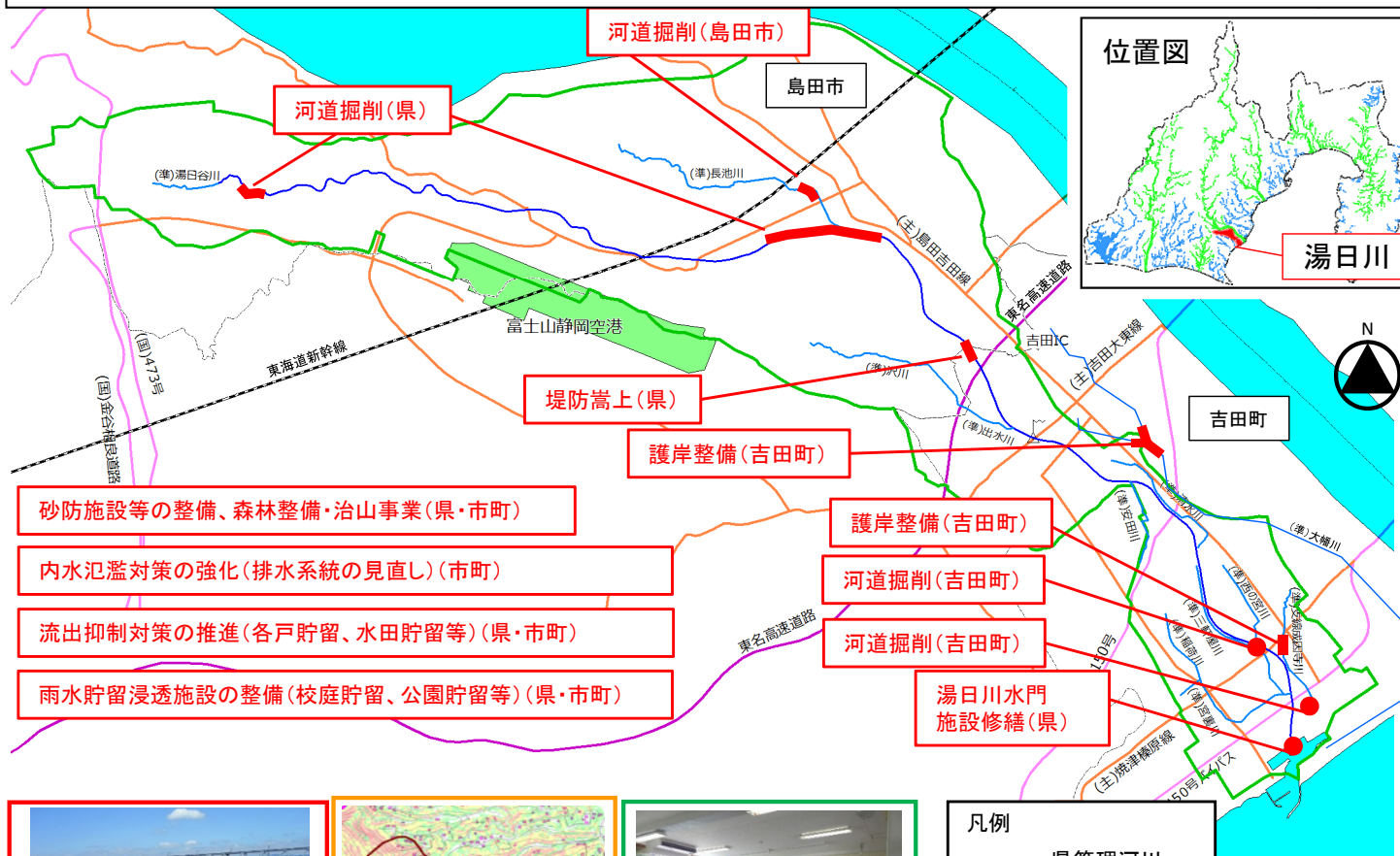
榛南地域の水系別流域治水プロジェクト(案)

湯日川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～河道掘削等による浸水被害の軽減及び流域治水対策の推進～

1

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生しており、湯日川水系においても、平成25年4月洪水で浸水被害が発生するなど、事前防災対策を進める必要がある。
- 湯日川流域は、流域の市街化の進展や海岸付近の低平地に住宅地が広がる地形的特性などにより洪水や津波の浸水被害のリスクが高いことから、河川改修や水門の機能維持を実施する。
- これらの取組により、県管理区間においては、平成25年4月洪水と同規模（年超過確率 1/10 規模の降雨）の洪水を安全に流下させることに加え、想定される津波からの被害の防止又は軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、各戸貯留や水田貯留など流出抑制対策の推進、立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進や各種ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって、激甚化する水害や想定される津波に対し、被害の軽減を図る。



● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【流下能力の向上・維持】

- ・ 河川改修(河道拡幅、河道掘削、堤防嵩上、伐木等)、水門の機能維持(施設修繕)
- ・ 内水氾濫対策の強化(雨水幹線、排水ポンプの整備、排水系統の見直し)
- ・ 農業取水堰の改良・統廃合や占用物件の適正管理

【貯留機能の確保】

- ・ 雨水貯留浸透施設の整備(校庭貯留、公園貯留等)

【流域の流出抑制】

- ・ 流出抑制対策の推進(各戸貯留、水田貯留等)
- ・ 砂防施設等の整備、森林整備・治山事業

等

● 被害対象を減少させるための対策

【土地利用】

- ・ 立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進(立地適正化計画に基づく防災指針の作成)
- ・ 土地利用の適正指導、無秩序な開発の抑制

【住まい方の工夫】

- ・ 災害ハザードエリアの開発抑制
- ・ 水災害リスク情報空白域の解消(土砂災害警戒区域LP測量による新規抽出)
- ・ まるごとまちごとハザードマップの推進

等

● 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

【水災害リスク情報の充実や周知】

- ・ 水災害リスク情報空白域の解消(洪水浸水想定区域図の作成、ハザードマップの作成、土砂災害警戒区域標識等の設置)
- ・ ハザードマップ周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組(住民及び小中高等学校への水防災教育、出前講座、避難訓練、マイ・タイムラインの推進等)
- ・ サイボスレーダー等による河川水位情報等の提供

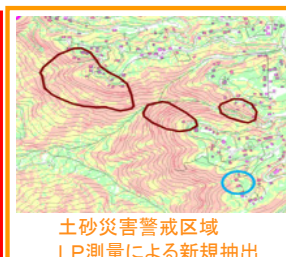
【避難体制の強化】

- ・ 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

等



河道掘削(イメージ)



土砂災害警戒区域
LP測量による新規抽出



出前講座(小学校) イメージ

凡例

- 県管理河川
- 市町管理河川
- 国道
- 県道
- 流域界

湯日川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～河道掘削等による浸水被害の軽減及び流域治水対策の推進～

2

- 湯日川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】市街地における流下能力向上のための河道拡幅などの河川改修、水門の機能維持に着手する。
加えて、被害軽減のために内水氾濫対策の強化や公共施設の雨水貯留浸透施設の整備を検討するとともに、流出抑制対策の推進を行う。
 - 【中期】浸水被害軽減のために校庭貯留や公園貯留などの雨水貯留浸透施設の整備を推進する。
浸水リスクを考慮したまちづくりのため、立地適正化計画に記載する「防災指針」を作成する。
 - 【中長期】流下能力向上のための河道拡幅などの河川改修、水門の機能維持を引き続き実施する。併せて、市町と連携したハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組など、ソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域住民全体の防災意識の向上を図る。

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。
※調査・検討から着手する施策については地権者の協力等、関係者間の調整が整った箇所から実施

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流下能力向上のための河川改修の実施 水門の機能維持	静岡県・島田市・吉田町	流下能力向上のための河川改修、水門の機能維持		
	内水氾濫対策の強化	島田市・吉田町	調査・検討	内水氾濫対策の強化(雨水幹線、排水ポンプの整備、排水系統の見直し)※	
	農業取水堰の改良・統廃合や占用物件の管理	静岡県・島田市・吉田町			
	河川への流出を抑制する 雨水貯留浸透施設の整備	静岡県・島田市・吉田町	調査・検討	雨水貯留浸透施設(校庭貯留、公園貯留等)の整備※	
	流出抑制対策の推進	静岡県・島田市・吉田町	調査・検討	流出抑制対策(各戸貯留、水田貯留等)の推進※	
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	静岡県・島田市・吉田町			
被害対象を減少させるための対策	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制 災害ハザードエリアの開発抑制 まるとまちごとハザードマップの推進	島田市・吉田町			
	立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進(立地適正化計画に基づく防災指針の作成)	島田市・吉田町	調査・検討	立地適正化計画に基づく 防災指針の作成	
被害の軽減、 早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消	静岡県・島田市・吉田町	洪水浸水想定区域図作成、ハザードマップの作成、土砂災害警戒区域標識等の設置		
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組	静岡県・島田市・吉田町	マイ・タイムラインの推進、住民及び小中高等学校への水防災教育、出前講座、避難訓練等		
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	島田市・吉田町			
	サイボスレーダー等による河川水位情報等の提供	静岡県・島田市・吉田町			

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

坂口谷川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～河道掘削や津波対策水門の整備による浸水被害の軽減及び流域治水対策の推進～

3

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生しており、坂口谷川水系においても、平成25年4月洪水で浸水被害が発生するなど、事前防災対策を進める必要がある。
- 坂口谷川流域は、流域の市街化の進展や海岸付近の低平地に住宅地が広がる地形的特性などにより洪水や津波の浸水被害のリスクが高いことから、河川改修や水門整備を実施する。
- これらの取組により、県管理区間においては、年超過確率 1/5 規模の降雨の洪水を安全に流下させることに加え、想定される津波からの被害の防止又は軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、各戸貯留や水田貯留など流出抑制対策の推進、立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進や各種ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって、激甚化する水害や想定される津波に対し、被害の軽減を図る。



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【流下能力の向上・維持】

- ・河川改修(河道拡幅、河道掘削、堤防嵩上等)、水門整備
 - ・内水氾濫対策の強化(雨水幹線、排水ポンプの整備、排水ポンプ車の活用、排水系統の見直し)
 - ・農業取水堰の改良・統廃合や占用物件の適正管理
- 【貯留機能の確保】
- ・雨水貯留浸透施設の整備(校庭貯留、公園貯留等)
 - ・農業用水利施設の活用(ため池、排水機場の活用や適正管理)
- 【流域の流出抑制】
- ・流出抑制対策の推進(各戸貯留、水田貯留等)
 - ・砂防施設等の整備、森林整備・治山事業
- 等

●被害対象を減少させるための対策

【土地利用】

- ・立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進(立地適正化計画に基づく防災指針の作成)
- ・土地利用の適正指導、無秩序な開発の抑制

【住まい方の工夫】

- ・災害ハザードエリアの開発抑制
 - ・水災害リスク情報の空白域の解消(土砂災害警戒区域LP測量による新規抽出)
 - ・まちごとまるごとハザードマップの推進
- 等

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

【水災害リスク情報の充実や周知】

- ・水災害リスク情報の空白域の解消(洪水浸水想定区域図の作成、ハザードマップの作成、土砂災害警戒区域標識等の設置)
 - ・ハザードマップ周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組(住民及び小中高等学校への水防災教育、出前講座、避難訓練、マイ・タイムラインの推進等)
 - ・サイボスレーダー等による河川水位情報等の提供
- 【避難体制の強化】
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保
- 等

坂口谷川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～河道掘削や津波対策水門の整備による浸水被害の軽減及び流域治水対策の推進～

4

- 坂口谷川では上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、市が一体となって以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】河川整備計画に基づく河川改修や水門整備を実施する。加えて、被害軽減のために内水氾濫対策の強化や公共施設の雨水貯留浸透施設の整備を検討するとともに、流出抑制対策の推進を行う。
 - 【中期】浸水被害軽減のために校庭貯留や公園貯留などの雨水貯留浸透施設の整備を推進する。浸水リスクを考慮したまちづくりのため、立地適正化計画に記載する「防災指針」を作成する。
 - 【中長期】浸水被害の軽減のため、河川整備計画に基づく河川改修、水門整備を引き続き実施する。併せて、市町と連携したハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組など、ソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域住民全体の防災意識の向上を図る。

■事業規模

・河川対策

全体事業費 約43億円 ※1
対策内容 河道改修、河道掘削 等

※1：整備計画の残事業費を記載

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

※調査・検討から着手する施策については地権者の協力等、関係者間の調整が整った箇所から実施

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流下能力向上のための河川改修の実施 水門整備	静岡県・牧之原市・吉田町	整備計画に基づく河川改修、水門整備		
	内水氾濫対策の強化	牧之原市・吉田町	内水氾濫対策の強化(雨水幹線、排水ポンプの整備、排水ポンプ車の活用、排水系統の見直し)		
	農業取水堰の改良・統廃合や占用物件の適正管理	静岡県・牧之原市・吉田町			
	河川への流出を抑制する 雨水貯留浸透施設の整備	牧之原市・吉田町	調査・検討		雨水貯留浸透施設(校庭貯留、公園貯留等)の整備※
	農業用水利施設等の活用	牧之原市・吉田町	調査・検討		農業用水利施設等の活用(ため池、排水機場、防災調整池の活用や適正管理)※
	流出抑制対策の推進	静岡県・牧之原市・吉田町	調査・検討		流出抑制対策(各戸貯留、水田貯留等)の推進※
	砂防施設等の整備、治山施設、森林整備	静岡県・牧之原市・吉田町			
被害対象を減少させるための対策	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制 災害ハザードエリアの開発抑制 まちごとまるごとハザードマップの推進	牧之原市・吉田町			
	立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進(立地適正化計画に基づく防災指針の作成)	牧之原市・吉田町	調査・検討	立地適正化計画に基づく 防災指針の作成	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消	静岡県・牧之原市・吉田町	浸水想定区域図作成、ハザードマップの作成、土砂災害警戒区域標識等の設置		
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組	静岡県・牧之原市・吉田町	マイ・タイムラインの推進、住民及び小中高등학교への水防災教育、出前講座、避難訓練等		
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	牧之原市・吉田町			
	サイボスレーダー等による河川水位情報等の提供	静岡県・牧之原市・吉田町			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

勝間田川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～河道掘削、水門の改良等による浸水被害の軽減及び流域治水対策の推進～

5

- 令和元年東日本台風では各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生しており、勝間田川水系においても、平成16年11月豪雨により浸水被害が発生するなど、事前防災対策を進める必要がある。
- 勝間田川流域は、流域の市街化の進展や海岸付近の低平地に住宅が広がる地形的特性などにより洪水や津波の浸水被害のリスクが高いことから、河川改修や水門の機能維持・改良を実施する。
- これらの取組により、県管理区間においては、平成16年11月洪水と同規模（年超過確率 1/3 規模の降雨）の洪水を安全に流下させることに加え、想定される津波からの被害の防止又は軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、各戸貯留や水田貯留など流出抑制対策の推進、立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進や各種ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって、激甚化する水害や想定される津波に対し、被害の軽減を図る。



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【流下能力の向上・維持】

- ・ 河川改修(護岸整備、河道掘削、堤防嵩上、伐木等)、水門の機能維持(施設修繕・改良)
- ・ 内水氾濫対策の強化(雨水幹線、排水ポンプの整備、排水系統の見直し)
- ・ 農業取水堰の改良・統廃合や占用物件の適正管理

【貯留機能の確保】

- ・ 雨水貯留浸透施設の整備(校庭貯留、公園貯留等)
- ・ 農業水利施設の活用(ため池、排水機場の活用や適正管理)

【流域の流出抑制】

- ・ 流出抑制対策の推進(各戸貯留、水田貯留等)
- ・ 砂防施設等の整備、森林整備・治山事業

等

●被害対象を減少させるための対策

【土地利用】

- ・ 立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進(立地適正化計画に基づく防災指針の作成)
- ・ 土地利用の適正指導、無秩序な開発の抑制

【住まい方の工夫】

- ・ 災害ハザードエリアの開発抑制
- ・ 水災害リスク情報空白域の解消(土砂災害警戒区域LP測量による新規抽出)
- ・ まるごとまちごとハザードマップの推進

等

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

【水災害リスク情報の充実や周知】

- ・ 水災害リスク情報空白域の解消(洪水浸水想定区域図の作成、ハザードマップの作成、土砂災害警戒区域標識等の設置)
 - ・ ハザードマップ周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組(住民及び小中高等学校への水防災教育、出前講座、避難訓練、マイ・タイムラインの推進等)
 - ・ サイポスレーダー等による河川水位情報等の提供
- 【避難体制の強化】
- ・ 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

等

勝間田川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～河道掘削、水門の改良等による被害の軽減及び流域治水対策の推進～

6

- 勝間田川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】河川整備計画に基づく河川改修や、水門の機能維持を実施する。
加えて、被害軽減のために内水氾濫対策の強化や公共施設の雨水貯留浸透施設の整備を検討するとともに、流出抑制対策の推進を行う。
 - 【中期】浸水被害軽減のために校庭貯留や公園貯留などの雨水貯留浸透施設の整備を推進する。
浸水リスクを考慮したまちづくりのため、立地適正化計画に記載する「防災指針」を作成する。
 - 【中長期】浸水被害の軽減のため、河川整備基本方針や河川整備計画に基づく河川改修を継続的に実施する。
併せて、市と連携したハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進などソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域住民全体の防災意識の向上を図る。

■事業規模

・河川対策

全体事業費 約20億円 ※1
対策内容 河川改修 等

※1：整備計画の残事業費を記載

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。
※調査・検討から着手する施策については地権者の協力等、関係者間の調整が整った箇所から実施

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流下能力向上のための河川改修の実施 水門の機能維持	静岡県・牧之原市	整備計画に基づく河川改修、水門の機能維持		
	内水氾濫対策の強化	牧之原市	調査・検討	内水氾濫対策の強化(雨水幹線、排水ポンプの整備、排水系統の見直し)※	
	農業取水堰の改良・統廃合や占用物件の適正管理	静岡県・牧之原市			
	河川への流出を抑制する 雨水貯留浸透施設の整備	静岡県・牧之原市	調査・検討	雨水貯留浸透施設(校庭貯留、公園貯留等)の整備※	
	農業用水利施設の活用	牧之原市	調査・検討	農業用水利施設の活用(ため池、排水機場、防災調整池の活用や適正管理)※	
	流出抑制対策の推進	静岡県・牧之原市	調査・検討	流出抑制対策(各戸貯留、水田貯留等)の推進※	
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	静岡県・牧之原市			
被害対象を減少させるための対策	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制 災害ハザードエリアの開発抑制 まるとまちごとハザードマップの推進	牧之原市			
	立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進(立地適正化計画に基づく防災指針の作成)	牧之原市	調査・検討	立地適正化計画に基づく 防災指針の作成	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消	静岡県・牧之原市	洪水浸水想定区域図作成、ハザードマップの作成、土砂災害警戒区域標識等の設置		
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組	静岡県・牧之原市	マイ・タイムラインの推進、住民及び小中高等学校への水防災教育、出前講座、避難訓練等		
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	牧之原市			
	サイボスレーダー等による河川水位情報等の提供	静岡県・牧之原市			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

萩間川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～河道掘削、水門の改良等による被害の軽減及び流域治水対策の推進～

8

- 萩間川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
- 【短期】 河川整備計画に基づく、河川改修や河道掘削、水門の機能維持を実施する。
加えて、被害軽減のために内水氾濫対策の強化や公共施設の雨水貯留浸透施設の整備を検討するとともに、流出抑制対策の推進を行う。
- 【中期】 浸水被害軽減のために校庭貯留や公園貯留などの雨水貯留浸透施設の整備を推進する。
浸水リスクを考慮したまちづくりのため、立地適正化計画に記載する「防災指針」を作成する。
- 【中長期】 浸水被害の軽減のため、河川整備計画に基づく河川改修や河道掘削を引き続き実施する。
併せて、市と連携したハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組など、ソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域住民全体の防災意識の向上を図る。

■事業規模

・河川対策

全体事業費 約21億円 ※1
対策内容 河道改修、河道掘削 等

※1：整備計画の残事業費を記載

※スケジュールは今後の事業進捗によって

変更となる場合がある。

※調査・検討から着手する施策については地権者の協力等、関係者間の調整が整った箇所から実施

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流下能力向上のための河川改修の実施 水門の機能維持	静岡県・牧之原市	整備計画に基づく河川改修、水門の機能維持		
	内水氾濫対策の強化	牧之原市	調査・検討	内水氾濫対策の強化(雨水幹線、排水ポンプの整備、排水系統の見直し)※	
	河川への流出を抑制する 雨水貯留浸透施設の整備	静岡県・牧之原市	調査・検討	雨水貯留浸透施設(校庭貯留、公園貯留等)の整備)※	
	農業用水利施設の活用	牧之原市	調査・検討	農業用水利施設の活用(ため池の活用や適正管理)※	
	流出抑制対策の推進	静岡県・牧之原市	調査・検討	流出抑制対策(各戸貯留、水田貯留等)の推進※	
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	静岡県・牧之原市			
被害対象を減少させるための対策	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制 災害ハザードエリアの開発抑制 まるとまちごとハザードマップの推進	牧之原市	調査・検討	立地適正化計画に基づく 防災指針の作成	
	立地適正化計画による浸水リスク を考慮したまちづくりの推進(立地適正化 計画に基づく防災指針の作成)	牧之原市			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消	静岡県・牧之原市	洪水浸水想定区域図作成、ハザードマップの作成、土砂災害警戒区域標識等の設置		
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組	静岡県・牧之原市	マイ・タイムラインの推進、住民及び小中高等学校への水防災教育、出前講座、避難訓練等		
	要配慮者利用施設における避難確保計画の 作成促進と避難の実効性確保	牧之原市			
	サイボスレーダー等による河川水位情報等の 提供	静岡県・牧之原市			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

須々木川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～河道や水門の機能維持による浸水被害の軽減及び流域治水対策の推進～

9

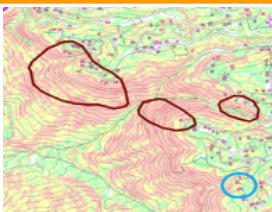
- 令和元年東日本台風では各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生しており、須々木川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 須々木川流域は、海岸付近の下流域に住宅地が広がる地形的特性などにより洪水や津波の浸水被害のリスクが高いことから、河川改修や水門の機能維持を実施する。
- これらの取組により、県管理区間においては、年超過確率 1/5 規模の降雨による洪水を安全に流下させることに加え、想定される津波からの被害の防止又は軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、各戸貯留や水田貯留など流出抑制対策の推進、立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進や各種ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって、激甚化する水害や想定される津波に対して被害の軽減を図る。



須々木川水門施設修繕



河道掘削(イメージ)



土砂災害警戒区域
LP測量による新規抽出



出前講座(小学校) イメージ

●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【流下能力の向上】

- ・河川改修(河道掘削、伐木等)、水門の機能維持(施設修繕)
- ・内水氾濫対策の強化(雨水幹線、排水系統の見直し)

【貯留機能の確保】

- ・雨水貯留浸透施設の整備(校庭貯留、公園貯留等)

【流域の流出抑制】

- ・流出抑制対策の推進(各戸貯留、水田貯留等)
- ・砂防施設等の整備、森林整備・治山事業

等

●被害対象を減少させるための対策

【土地利用】

- ・立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進(立地適正化計画に基づく防災指針の作成)
- ・土地利用の適正指導、無秩序な開発の抑制

【住まい方の工夫】

- ・災害ハザードエリアの開発抑制
- ・水災害リスク情報空白域の解消(土砂災害警戒区域LP測量による新規抽出)
- ・まるごとまちごとハザードマップの推進

等

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

【水災害リスク情報の充実や周知】

- ・水災害リスク情報空白域の解消(洪水浸水想定区域図の作成、ハザードマップの作成、土砂災害警戒区域標識等の設置)
- ・ハザードマップ周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組(住民及び小中高等学校への水防災教育、出前講座、避難訓練、マイ・タイムラインの推進等)
- ・サイボスレーダー等による河川水位情報等の提供

【避難体制の強化】

- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

等

須々木川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～河道や水門の機能維持による浸水被害の軽減及び流域治水対策の推進～

10

- 須々木川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】河川整備計画に基づく河川改修や水門の機能維持に着手する。
加えて、被害軽減のために内水氾濫対策の強化や公共施設の雨水貯留浸透施設の整備を検討するとともに、流出抑制対策の推進を行う。
 - 【中期】浸水被害軽減のために校庭貯留や公園貯留などの雨水貯留浸透施設の整備を推進する。
浸水リスクを考慮したまちづくりのため、立地適正化計画に記載する「防災指針」を作成する。
 - 【中長期】流下能力維持のために河川整備計画に基づく河道掘削や水門の機能維持を継続的に実施する。
併せて、市と連携したハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組などソフト対策による継続的な取組により、流域住民全体の防災意識向上を図る。

■事業規模

・河川対策

全体事業費 約1億円 ※1
対策内容 水門の機能維持 等

※1：整備計画残事業費を記載

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。
※調査・検討から着手する施策については地権者の協力等、関係者間の調整が整った箇所から実施

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ 防ぐ・減らすための対策	流下能力向上のための河川改修の実施 水門の機能維持	静岡県・ 牧之原市	整備計画に基づく河川改修、水門の機能維持		
	内水氾濫対策の強化	牧之原市	調査・検討	内水氾濫対策(雨水幹線、排水ポンプの整備、排水系統の見直し)の強化※	
	河川への流出を抑制する 雨水貯留浸透施設の整備	牧之原市	調査・検討	雨水貯留浸透施設(校庭貯留、公園貯留等)の整備※	
	流出抑制対策の推進	静岡県・ 牧之原市	調査・検討	流出抑制対策(各戸貯留、水田貯留等)の推進※	
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	静岡県・ 牧之原市			
被害対象を減少 させるための対策	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制 災害ハザードエリアの開発抑制 まるごとまちごとハザードマップの推進	牧之原市			
	立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進（立地適正化計画に基づく防災指針の作成）	牧之原市	調査・検討	立地適正化計画に基づく 防災指針の作成	
被害の軽減、早期復旧・ 復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消	静岡県・ 牧之原市	洪水浸水想定区域図作成、ハザードマップの作成、土砂災害警戒区域標識等の設置		
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組	静岡県・ 牧之原市	マイ・タイムラインの推進、住民及び小中高等学校への水防災教育、出前講座、避難訓練等		
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	牧之原市			
	サイボスレーダー等による河川水位情報等の提供	静岡県・ 牧之原市			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降

東沢川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～河道掘削や津波対策樋門の整備による浸水被害の軽減及び流域治水対策の推進～

11

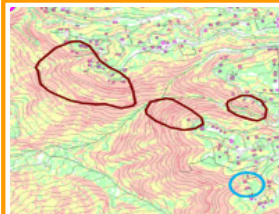
- 令和元年東日本台風では各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、東沢川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 東沢川流域は、海岸付近の下流域に住宅地が広がる地形的特性などにより洪水や津波の浸水被害のリスクが高いことから、河川改修や樋門の整備を実施する。
- これらの取組により、県管理区間においては、年超過確率 1/30 規模の降雨による洪水を安全に流下させることに加え、想定される津波からの被害の防止又は軽減を図る。
- 加えて、あらゆる関係者が連携し、各戸貯留や水田貯留など流出抑制対策の推進、立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進や各種ハザードマップの作成・周知等、ソフト対策と合わせて流域一体となって激甚化する水害や想定される津波に対し、浸水被害の軽減を図る。



東沢川樋門整備



河道掘削(イメージ)



土砂災害警戒区域
LP測量による新規抽出



出前講座(小学校) イメージ

●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【流下能力の向上】

- ・ 樋門整備、河川改修（河道掘削、伐木等）
- ・ 内水氾濫対策の強化（雨水幹線、排水系統の見直し）

【貯留機能の確保】

- ・ 雨水貯留浸透施設の整備（校庭貯留、公園貯留等）

【流域の流出抑制】

- ・ 流出抑制対策の推進（各戸貯留、水田貯留等）
- ・ 砂防施設等の整備、森林整備・治山事業 等

●被害対象を減少させるための対策

【土地利用】

- ・ 立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進（立地適正化計画に基づく防災指針の作成）
- ・ 土地利用の適正指導、無秩序な開発の抑制

【住まい方の工夫】

- ・ 災害ハザードエリアの開発抑制
- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（土砂災害警戒区域LP測量による新規抽出）
- ・ まるごとまちごとハザードマップの推進 等

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

【水災害リスク情報の充実や周知】

- ・ 水災害リスク情報空白域の解消（洪水浸水想定区域図の作成、ハザードマップの作成、土砂災害警戒区域標識等の設置）
- ・ ハザードマップ周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組（住民及び小中高等学校への水防災教育、出前講座、避難訓練、マイ・タイムラインの推進等）

- ・ サイボスレーダー等による河川水位情報等の提供

【避難体制の強化】

- ・ 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保 等

東沢川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】

～河道掘削や津波対策樋門の整備による浸水被害の軽減及び流域治水対策の推進～

12

- 東沢川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、市が一体となり、以下の手順で「流域治水」を推進する。

- 【短期】河川整備計画に基づく樋門の整備に着手する。
 加えて、被害軽減のために内水氾濫対策の強化や公共施設の雨水貯留浸透施設の整備を検討するとともに、流出抑制対策の推進を行う。
- 【中期】浸水被害軽減のために校庭貯留や公園貯留などの雨水貯留浸透施設の整備を推進する。
 浸水リスクを考慮したまちづくりのため、立地適正化計画に記載する「防災指針」を作成する。
- 【中長期】流下能力維持のため河川整備計画に基づく河道掘削や樋門の整備を継続的に実施する。併せて、市と連携したハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組などソフト対策による短期からの継続的な取組により、流域住民全体の防災意識の向上を図る。

■事業規模

・河川対策

全体事業費 約4億円 ※1
 対策内容 樋門の新設、河道掘削 等

※1：整備計画の残事業費を記載

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。
 ※調査・検討から着手する施策については地権者の協力等、関係者間の調整が整った箇所から実施

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流下能力向上のための河川改修の実施 樋門整備	静岡県・牧之原市	整備計画に基づく河川改修、樋門整備		
	内水氾濫対策の強化	牧之原市	調査・検討		内水氾濫対策(雨水幹線、排水ポンプの整備、排水系統の見直し)の強化※
	雨水貯留浸透施設の整備	牧之原市	調査・検討		雨水貯留浸透施設(校庭貯留、公園貯留等)の整備※
	流出抑制対策の推進	静岡県・牧之原市	調査・検討		流出抑制対策(各戸貯留、水田貯留等)の推進※
	砂防施設等の整備、森林整備・治山事業	静岡県・牧之原市			
被害対象を減少させるための対策	土地利用の適正指導、無秩序な開発抑制 災害ハザードエリアの開発抑制 まるとまちごとハザードマップの推進	牧之原市			
	立地適正化計画による浸水リスクを考慮したまちづくりの推進（立地適正化計画に基づく防災指針の作成）	牧之原市	調査・検討	立地適正化計画に基づく 防災指針の作成	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報空白域の解消	静岡県・牧之原市	洪水浸水想定区域図作成、ハザードマップの作成、土砂災害警戒区域標識等の設置		
	ハザードマップの周知及び住民の水害や土砂災害リスクに対する理解促進の取組	静岡県・牧之原市	マイ・タイムラインの推進、住民及び小中高等学校への水防災教育、出前講座、避難訓練等		
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	牧之原市			
	サイボスレーダー等による河川水位情報等の提供	静岡県・牧之原市			

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

【短期】概ね5年 【中期】概ね10年目まで 【中長期】概ね11年目以降